

調査4 景気が改善あるいは悪化している要因についての主な意見

- 一般的に機械製造業が悪いので、受注量が減少している。(製造業)
- 経済のグローバル化がもたらす影響が大きく、海外生産へのシフト等が必要である。(製造業)
- 欧州金融危機による販売減、円高による為替差損益。(製造業)
- 公共工事の減少及び低価格競争激化(電気工事業)
- 東北の復興が徐々に進み、出稼ぎの不足から更に関東より東北の単価が良いので逆転現象が起こり人材不足が深刻になる見込みで準備が必要。(建設業)
- 仕事量はそれほど減少していないが、工事費がさがっている(建設業)
- 業界全体の問題か。日本経済の問題か。(電気工事業)
- 取引先の支払サイトと自社のサイトのずれ。(工務店)
- 元請業者との契約金額が厳しくなっている。(建設業)
- 少子高齢化、供給過剰、勤労意欲の衰退。(不動産業)
- 経済全体の不況による節約志向の影響。趣味・趣向の多様化。(サービス業)
- サービスの質の低下、宣伝不足(美容室)
- 政治不安、先行き不透明(同意見5件)
- 震災の影響で東北地方に機械が集中し東京の機械が少ないため受注が多少多くなっている。(サービス業)
- 安い物が良いと思われている風潮(サービス業)
- 天変地異の異常、失業の増加等と思われる(サービス業)
- 業界イメージの宣伝不足(サービス業)
- 震災による資材の高騰及び関東地区に人材不足が顕著になり、関東地方での建設事業等の発注が減少になっている(サービス業)
- 民間設備投資の低下による工事の低迷。官公庁からの発注量の下落及び低価格受注(サービス業)
- 欧米の経済危機と円高(サービス業)
- ストア、量販店の増加、地域全体の活性がない。(サービス業)
- 修理ビジネスの需要拡大(サービス業)
- 日本資本のユーザーが海外に流失し、国内の空洞化が加速。従い競合各社と差別化した製品・サービスを海外日系ユーザーに行っている。(卸売業)
- 為替による悪化(卸売業)
- 個人消費の低迷と先行不安感で改善点が見つからないため。(飲食業)
- 東日本大震災、原発事故、寒波(同様意見3件、飲食業)
- お客様が不安になり、お金を使わなくなったのではないか。(飲食業)
- 世界状況の悪化。メガネ業界プロ意識の悪化によるメガネが雑貨になってしまっている。(小売業)
- タイの洪水被害、円高・ユーロ高の影響により、企業によっては業績が悪く、投資を抑える傾向がある。
(小売業)
- 商品開発(節電・省エネ関連機器等)が活発化している。エコ補助金等が業績の回復に繋がっている。
(小売業)
- 震災の影響によるギフトの売上減少(小売業)
- デフレと福島原発問題、世界的な景気低迷(小売業)
- 荷主の販売減少、その要因は欧州の信用不安、中国の金融引締めが影響している。(運輸業)